

学が育む

高専の卒業生は4人に1人が大学に編入学する。高専生向けの学習塾「ナレッジスター」(仙台市)代表の渡辺友章さん(29)に理由を聞いた。

◇ 高専で学ぶ学生に、定期試験対策や編入試験対策の指導をしている。進路に悩んでいる学生には、大学への編入学を勧めることが多い。工学系に特化した高専で学んでいると、世界が狭くなりがちだ。大学に進学すると、背景の異なる専門学校の(高専)の学生獲得に大学の理工系学部が力を入れている。5年一貫教育で実験・実習を重視してきた高専生は、大学の研究室でも評価が高い。受験勉強中心だった高校出身の学生にとっ

編入学対策の塾代表 渡辺友章さん



わたなべ・ともあき 2016年度に仙台高専本科を卒業後、同校専攻科に進学。休学中に、高専生のための学習塾を運営する会社「エニバー」を同級生と共に創業し、同社代表となる。20年から学習塾「ナレッジスター」の事業責任者を務める。

なる多くの人と交流することができ、視野が広がる。高専生は大手企業を含めて求人が多く、就職率が高い。ただ、大卒との待遇や昇進に

視野広げ 選択肢増やす道

あると聞く。学位を取ればキャリアの選択肢も広がるはずだ。

編入試験は、英語能力試験「TOEIC」のスコアの提出と、数学や物理、化学などの筆記試験、口頭試問などを課す大学が主流だ。成績優秀者は指定校推薦で進学することもできる。

編入先は主に大学工学部の3年生、または2年生になる。高専生は卒業研究で論文を書いているので、専門教育が始まる前の2年生の授業では、



九大工学部と久留米高専の両校に在籍している植木さん(左)(4月24日、福岡県春日市の九大筑紫キャンパスで)



茨城高専から指定校推薦で早大創造理工工学部に編入学した小山さん(中央)(4月30日、東京都新宿区で)

早稲田大(東京)も、優秀な高専生を獲得しようと、24年4月入学から、編入学指定校推薦制度を導入した。成績が各校の上位10%以内などの条件を満たした高専生は、書類選考と面接で基幹・創造・先進の3理工学部の2、3年生に編入学できる。

創造理工学部環境資源工学科の山口勉功教授(62)の研究室では4月30日にゼミがあり、学生5人が集まった。

4年の小山瑠奈さん(22)は茨城高専本科を卒業後、「自分と異なる背景を持った大学生とともに研究をしたい」と

物足りない人もいるかもしれない。一方で、2年生は必修単位も少なく、大学生活に慣れる時間的な余裕が持てる。同期生より1学年遅れるが、悪いことばかりではない。

高専は、座学で学んだ知識を実験で確かめ、失敗を繰り返しながらレポートをまとめる学習をたたき込まれる。課題に直面した時に、まずは手を動かして突破口を探る意識があるのは、高専生の強みだ。就職でも大学への進学でも、この強みを生かせる場所を見つけてほしい。

*この連載は、恒川良輔、染木彩、宇田和幸が担当しました。

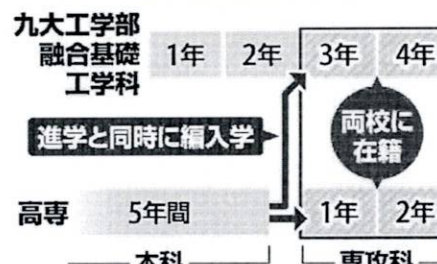
No.2899



教育ルネサンス

高専 再注目 下

九大の高専連携教育プログラム



※九州大の資料を基に作成

高等専門学校(高専)の学生獲得に大学の理工系学部が力を入れている。5年一貫教育で実験・実習を重視してきた高専生は、大学の研究室でも評価が高い。受験勉強中心だった高校出身の学生にとっ

「こっちは教科書で理論や実験の手順を必死に覚えているのに、もう実験装置を動かしていた」

4月24日、セラミックス電池などの研究に取り組む九州大大学院総合理工学府の渡辺・末松研究室。工学部融合基礎工学科4年の高石浩さん(21)は、同じ4年の植木陽菜さん(21)が研究室に所属した当初から、実験室に入り浸っていた様子を振り返った。

「とりあえず実験してみないと、わからないから」。そう言って笑った植木さんは、久留米高専(福岡)の現役学生でもある。

植木さんは高専本科(5年間)を卒業後、高専でさらに2年間学ぶ専攻科に進学。同時に、九大の高専連携教育プ

まず実験 学部生に刺激

プログラム」を利用し、工学部3年にも編入学した。九大と高専の双方に在籍している。編入後の1年間は専攻科で研究を続けながらオンラインで大学の授業や研究室の活動に参加。4年生の今は研究室のある福岡県春日市の九大筑紫キャンパスに通い、研究に励んでいる。研究室の渡辺賢准教授(45)は「高専生は手を動かして試行し、高校出身者は理論的に考える傾向が強い。互いに刺激を受け合っている」と評価する。

プログラムは2023年度に九州・沖縄の九つの高専を対象に始まり、これまで約80人が利用した。学部卒業時には、学士の資格と専攻科の修了証が得られ、多くは九大の大学院に進学する。

九大高専連携教育推進センター長の奥山哲也教授(64)は「社会の多様な課題を解決する人材の育成には、多様な価値観を持つ学生同士が学び合う環境が必要だ。高い教育効果を期待している」と語る。

早稲田大(東京)も、優秀な高専生を獲得しようと、24年4月入学から、編入学指定校推薦制度を導入した。成績が各校の上位10%以内などの条件を満たした高専生は、書類選考と面接で基幹・創造・先進の3理工学部の2、3年生に編入学できる。

創造理工学部環境資源工学科の山口勉功教授(62)の研究室では4月30日にゼミがあり、学生5人が集まった。

4年の小山瑠奈さん(22)は茨城高専本科を卒業後、「自分と異なる背景を持った大学生とともに研究をしたい」と

文系の視点

人文・社会科学系の一橋大(東京)も、23年度に開設したソーシャル・データサイエンス学部は、27年4月入学から高専生を対象とした編入学試験を導入する。七丈直弘学部長(55)は「データサイエンスの技術力に加え、社会の文脈を読み解く視点を併せ持った人材を育てたい。高専生は理系から文系に『文転』するのはなく、『融合』すると捉えてほしい」と強調する。

高専生を主に受け入れるため、1976年に開学した長岡技術科学大(新潟)は、普通科高校や工業高校などの出身者は1年生から学び、在学生の8割を占める高専生は3年生から入学する。

同大の山下治理事・副学長(66)は「出身の異なる学生同士の交流は、学びに相乗効果が生まれる。15歳から専門を追究する高専生こそ、大学で学ぶ範囲を広げ、様々な人と交流して、自分の可能性を高めてほしい」と話している。

大学 編入生獲得に力

■双方に在籍

ロケラム」を利用し、工学部3年にも編入学した。九大と高専の双方に在籍している。編入後の1年間は専攻科で研究を続けながらオンラインで大学の授業や研究室の活動に参加。4年生の今は研究室のある福岡県春日市の九大筑紫キャンパスに通い、研究に励んでいる。研究室の渡辺賢准教授(45)は「高専生は手を動かして試行し、高校出身者は理論的に考える傾向が強い。互いに刺激を受け合っている」と評価する。

プログラムは2023年度に九州・沖縄の九つの高専を対象に始まり、これまで約80人が利用した。学部卒業時には、学士の資格と専攻科の修了証が得られ、多くは九大の大学院に進学する。

九大高専連携教育推進センター長の奥山哲也教授(64)は「社会の多様な課題を解決する人材の育成には、多様な価値観を持つ学生同士が学び合う環境が必要だ。高い教育効果を期待している」と語る。